

伊達政宗公の大河ドラマを誘致する会

設立趣意書（案）

伊達政宗公は、戦国の荒波を果敢に乗り越え、不屈の精神と卓越した手腕をもって時代に輝きを放ち、その眼差しは常に未来を見据えていました。

2036 年は、仙台・東北にとって極めて意義深い節目の年となります。この年は、戦国武将・伊達政宗公の没後 400 年という記念の年であり、仙台城跡・青葉山には、かつての威容を誇った大手門の復元が予定されています。これは、仙台・東北の歴史と文化を未来へと継承する象徴的な事業であり、地域の誇りと郷土愛を育む重要な取り組みです。

また、今を生きる私たちにとっても 2036 年は、東日本大震災から 25 年という節目の年でもあります。未曾有の大災害からの復興を遂げた仙台・東北は、国内外からの支援と地域の力強い結束によって、見事に立ち直り、今では防災・減災の先進地域として世界にその名を知られるようになりました。ここ仙台市では、第 3 回国連防災世界会議において世界の防災指針である「仙台防災枠組 2015-2030」が採択され、国際的な防災文化の発展に貢献し続けています。

奇しくも政宗公は、慶長三陸地震という大災害からの復興を指揮し、仙台藩の礎を築いた人物です。彼は、常に時代の先を見据え、世界との交流を志し、支倉常長をスペインやローマへ派遣するなど、国際的な視野を持って行動しました。その先見性と行動力は、現代の仙台・東北のまちづくりにも通じるものがあります。

かつて仙台城があったこの青葉山の地では、東北大学が国際卓越研究大学の認定を取得し、自治体と連携したダイバーシティ都市づくりが進められており、政宗公が目指した「世界に開かれた都市」の理念を現代に受け継ぎ、未来へと発展させています。

このような歴史的・文化的・社会的な節目が重なる 2036 年に、仙台・東北の繁栄の礎を築いた政宗公を描く新たな大河ドラマの放送が実現することで、地域の誇りを高め、観光・経済・教育など多方面にわたる波及効果が期待されます。

こうした観点から、政宗公の偉業を再び全国に、そして世界に発信するため、政宗公をテーマとした大河ドラマの実現に向け、関係自治体や関係団体等が一丸となり、誘致活動を推進する組織として、「伊達政宗公の大河ドラマを誘致する会」を設立するものです。